

蓬州舊勝錄 四

慶和縣
史編纂
係之印

共拾九冊

第 四 門

編付	品目	調製	費
文		昭和	第 三
書		年 月	号
課		日	

294
ス
1-4



日人解至平... 同孫箱

一 揚州始給... 紅書... 揚州

帝之... 右龜山

後... 寺... 死... 以... 後... 何... 言... 有... 處... 老... 家

怪... 處... 以... 盤... 什... 在... 世... 後... 無... 之... 為... 於... 別... 古... 中... 於... 寺... 以... 此...

可... 來... 與... 假... 矣

第九百七十四號

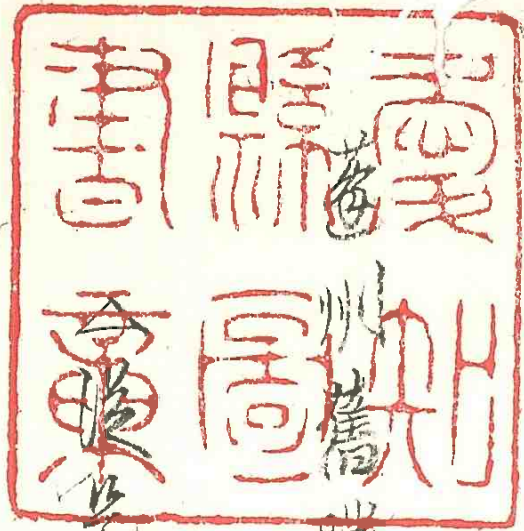
揚州

本... 地... 之

町

蓮州舊揚州

已



雲南騰越州書局藏

陰茶町通集

北ハ 蟻屋町 大車了限
南ハ 水之町 出上

西ハ 巾巾 新道條
東ハ 滝川 為河邊

- 南書通町 ○戸田町 ○古向町 ○新長尾筋 ○海内町
- 信濃屋筋 ○丸大町 ○西福喜筋 ○望月筋 ○松屋町
- 大馬馬町 ○小馬馬町 ○草子入町 ○八杉原 ○各町万地与限
- 言岳院順 ○藤下長尾 ○新道筋 ○白井書院 ○天正坊順
- 喜見地子中条礼屋 ○藤下長尾塩町家 ○各町老了橋筋 ○各町海内町 ○二杉
- 板柳



A294
入
1-4

○海間神社

九尾河町
海間町西側
江川筋東岸

三谷印記

祭神 木花開野媛命

向 陸路

多門

福祚之座

向 東

向 西

南向

天満宮

向 東
向 西

尚 社址古川富五塚所 津田氏居敷地に陸路二十町に
方の社地有りし為長 津城に菅原の討討受、易地
九月 甲子 津守 津山 湯立 津山 三谷氏 抄入宮如也

○舟又天社

舟又天社 舟又天社
舟又天社 舟又天社

舟又天社

舟又天社

○舟又天社

舟又天社 舟又天社
舟又天社 舟又天社

舟又天社

舟又天社

舟又天社 舟又天社
舟又天社 舟又天社

舟又天社

舟又天社

庚申

舟又天社

舟又天社

舟又天社

舟又天社

舟又天社

舟又天社 舟又天社
舟又天社 舟又天社

舟又天社 舟又天社
舟又天社 舟又天社

舟又天社

舟又天社

舟又天社 舟又天社
舟又天社 舟又天社

舟又天社

舟又天社

舟又天社

舟又天社

舟又天社

舟又天社

舟又天社

舟又天社

当方 致公正昭穆尚と師昌依中取立寛永十丁寺を建創

新及筋西側境
表南 山古河月裏寺
字乃 大八百坪降也

浄福寺の遺蹟

高木山寶園寺

号 陽州院

布衣 阿波院 座敷

寛永二十一年 月日不明

刑山 正堂上人陽州僧

寺一ヶ

大極越 寶園院殿心卷妙安大姉

観音堂 西向 三十三観音

希々天祠 南向

尚古 元ハ阿波院寺と云 寛永元毎の比止ハ極可裏に在り也
佛前 月日不明 作出との地ハ引越ス 寺御院堂及破格院

退物ニ用基ト是ニ歴代日記ナキ 委而ハ物交寛永元子
年 阿波院殿佛地ハ安大姉 寺東院記 住 破壊の堂宇
正再建シ西阿那 岩倉村惣領寺 三世陽州上人ヲ極徳而
為寺の開山トシ 是ハ當地ト云 正堂 知尚希 宝園院之
志 寺と云 寺新開院ノ中ニ 西向 寺時信因寺
改号 西延堂に及年 才五世 行卷具自上人代ニ寺
高木山宝園寺と改 寛永七年 自云ノ報 日光公御代
尚古七世 浄卷海印 人住職の時 西院殿佛地ニ在リ
建中寺時の方友の教者 尚古月方友 寺首地 希後
ホ免許 寺下 安永三年 自云住侶九代之 寺在岩倉村の地
舊号 寺本町と云 社 寺 寺新及降と云

高木山宝園寺隆鑑

梵籙為行也 威音一震 除之途 迷徒 苦患 妙智 遠徹 胸
十方 聖流 珍果 是故 龍天 久擁 護之 經論 多讚 勸之 其
妙 辨之 其 殿 威 利 也 不 可 勝 救 矣 然 道 場 必 可 備 之 哉
高木山宝園 蘭若 寺 有 隆 也 今 之 住 持 法 印 龍 鳳 峯 志 願

長時流法募僧度力必欲造之至言所感未分遂
得淨福之資既而諸佛降一口焉且欲烟聲暮叩
端妙乃矣又欲勸之從而士將末余清之嗚呼矣
成莫前也曹見雜說鐘時預一切惡道諸百
並停若聞法時乘說倡灌除五百億劫主左至
罪矣况乎如人欲興之信基永流行音以弘法刹主
哉且夫以此管根如其預力則一撞一聲一布化於法界萬
機万聽蒙益於塵劫後愛乎目吾欲結勝錄不顧
卑謫之需帶作非銘曰

并吞苦海 一口萃鯨 質如山靜 響以雷車
昏暎風迅 曉吼月清 溢天并地 通豎徹摸
兀魔可伏 怖恐心迎 速驚天變 普究群生
不朽若器 無尺梳色 勢備靈境 助弘妙行
刹之齋聽 劫之常鳴 功兼現益 往施餘采
萬兀星瑞 年光明 震之厥護由 動化訓砥
正德四年 屯集 甲午中夏 伽門鑑照述

○新乃多為例
古月八部十三部
肉之部介降他

東門院三州寺也他寺
西願寺

如言河經院

開山 西英法師

寺院云為古法寺六曲隔門 寺之舊也 而城寺舊之跡
也如(昂池)為寺之念念之跡也教(甲)之信云隱也
天文自(中)日(井)是也(古)比(嚴)と云人の寺跡也
現公(河)代(心)概(之)古(高)上(流)河(之)代(に)稀(故)也(教)筒(在)
此(に)の(為)力(も)万(之)也(心)法(の)處(在)有(の)中(に)強(き)り(あ)る(く)
高(野)の(跡)自(長)月(も)設(と)此(在)也(明)白(に)申(付)き(加)送(所)
之(候)り(り)河(筒)ハ(捕)之(候)ハ(も)好(ハ)も(好)兩(手)度(も)大(板)表(て)流(之)
ら(る)に(開)山(西)英(坊)ハ(馬)場(英)坊(有)俗(家)の(人)之(古)の(日)井
も(可)場(氏)一(流)之(と)云(中)也(柳)町(河)相(長)由(寺)の(墓)也
の(跡)あり(け)也(に)寺(の)跡(し)也(慶)年(の)ハ(寺)傍(も)今(如)之(

西願寺院誌

大日如國尾張州愛知郡名古屋西預道場者親書之
末流而以無量壽佛之教指示其癡迷者之冥然維寺
具備唯闕一涉故清之危極不涉有緣之緣之差別
加被男子女子之助成既成新矣夫——之為一
世聲振地府則晚受若人響徹利塵來跨飛騰
睡矣高僧傳云京大莊嚴寺 衆智與云吾見付法
傳屬實叱王受若聞——業輪見乃依僧一阿舍
鳴——法今詳此文凡為人聲——此乃按若必須
依法基 扣焉矣 善劑大哉乃作 張曰

千鈞重器	爐炭火精	治士眼鳩	淘穢理陰
萬人勲力	只危助厥	宝樓新築	交更修言
洪——之樹	頌素堅素	抱石成勢	鯨吼奔龍
二六緩打	百八眠驚	我之遠響	股之迫喝
醒輪回夢	除煩惱情	通達摩身	護月釋者

尚井苦困 現年卷石 受受苦倍 吐委如案
悟徹心開 迷多變更 針刃暗送 素月明迎
祇園夜靜 豐山夜霜滿 祈希望者 天下恭平
教信益盛 勤行常與 西彌寺裏 日與日榮

兜之白年 甲辰歲仲秋廿八日
前住如 妙覺庵海福直信叟宗書焉

○九西行 （新及中秘） 今初山長盛院建福寺元祿
口未年 建立如之 八院世者之 内山に地持者之 佛堂也
府内三十二地 落力九萬の 明九百五拾七、延享に
辰年三月廿七日 只當に 地持者院 己しゆんて 八五萬
九百無之 長盛院も 三後 増進轉し なが 佛堂の
佛馬丁 裏に再 興と 佛堂

○新道場御例之地
吉田を自貢地也

法苑三州御誓寺事 西

法苑寺

如き所法院

行基作念仏と云ひ法苑
輪日達を元聖摸旅

○陸樓 明聖元年
冬月迄立

用基 釋 光 證 法 下

正和元年戊午年三月
五日歳八千時八十七歳

由緒略記、山本山建立始ハ長治二乙酉年、三月下旬臨盆
檀弓所、宇段二男が誕生と云人三河守教盛湛寂の時、
江州磯井とて院に討死と云處、義平の情々危き場と
の、れを討死後法号圓盛と号次、藤兼元丙申七月
上旬、蒲原春日井郡山田井に著居を遷び天台法苑と號し、
院に保安三年宮云り三月朔六時、比老女一人忽死す
年、て云事代の元久元法苑、院に保安元年、法苑
比上と號し、別計日安と號す、法苑、御誓寺の、比老女の、

仙居必急ル、るるれと云捨て老女の、行用、山盛骨髄
も、御誓寺、念仏念了、述して、乙酉、二月、四月、
日、多上、下、下、古光坊、お續、法苑、大、老、妻、世、に、佛、ん、と、同
位、の、由、徳、名、と、上、て、法、苑、と、号、す、
右、法、苑、坊、り、伯、儀、三、十、年、乙、丑、初、回、中、
坊、一、乙、丑、二、乙、丑、年、甲、子、乙、丑、空、専、坊、入、寺、兼、安、坊、年、
午、上、り、乙、丑、坊、と、申、す、中、余、年、百、三、十、三、年、
文、曆、元、甲、午、乙、丑、年、百、光、隆、坊、入、寺、付、法、苑、別、く、中、を、た、る、
有、三、之、殿、造、立、有、同、坊、年、古、法、苑、と、号、す、
客、を、礼、拜、し、ま、は、る、殿、に、佛、を、り、て、ハ、事、母、の、懇、願、空、と、云、心、
而、一、字、を、建、立、し、ま、法、苑、と、号、す、
の、有、り、ま、す、と、云、改、名、法、苑、坊、(舊、會、あり、ゆ、く、日、邑、に、一、字、
を、建、て、法、苑、寺、と、号、す、是、を、山、田、井、村、法、苑、の、家、
に、法、苑、古、舊、法、と、号、す、不、忘、南、寺、の、如、く、
是、と、釈、光、隆、坊、年、乙、丑、年、
九月、廿、日、

法苑三州御誓寺事 西

西方寺 快道坊 住持 藏可定 置

法橋寺 隆及坊 住持 藏可定 置

康元元年 丙辰三月 五日 法橋寺に 快道坊入寺次

正嘉元元年 辛酉二月 五日 藏

西方寺 三世 釈迦如来

兩寺 用基 釋光 佛 法 印

法橋寺 三世 釈迦如来

其後法橋寺に 住持 隆及坊 住持 藏可定 置
西方寺の住持と 隆及坊 住持 藏可定 置
八日の夜 丑の時 隆及坊 住持 藏可定 置
と 隆及坊 住持 藏可定 置
一向 隆及坊 住持 藏可定 置
中より 卓上に 隆及坊 住持 藏可定 置
吾仙を 隆及坊 住持 藏可定 置
妙薬 隆及坊 住持 藏可定 置

弘奉 供養

是上 隆及坊 住持 藏可定 置

西方寺 住持 藏可定 置

法橋寺 住持 藏可定 置

連武 隆及坊 住持 藏可定 置

康曆二申年 二月 廿五日 隆及坊 住持 藏可定 置
其後 隆及坊 住持 藏可定 置
深 隆及坊 住持 藏可定 置
教 隆及坊 住持 藏可定 置
由 隆及坊 住持 藏可定 置
その後 隆及坊 住持 藏可定 置
十 隆及坊 住持 藏可定 置

當寺 中興 隆及坊 住持 藏可定 置

寛永二乙酉 二月 廿五日 隆及坊 住持 藏可定 置
寺 隆及坊 住持 藏可定 置

付加 靈苑略目

- 一 蓮如上人真像 本号活陀仙御尊の御像 二幅 貞治代
 - 一 活陀如來三尊 本号活陀如來三尊 一幅
 - 一 蓮如上人字名號 本号活陀如來三尊 二幅
 - 一 隆如上人三尊 本号活陀如來三尊 二幅
 - 一 本号活陀如來御像 本号活陀如來三尊 一册 貞治代
 - 一 親書聖人三尊 本号活陀如來三尊 二幅
 - 一 聖德太子真像 本号活陀如來三尊 二幅
- 尚古御尊の由伝と十代衆の御立地
- 一 七古御三尊 本号活陀如來三尊 一册 貞治代
 - 一 秀擔地 本号活陀如來三尊
 - 一 秀擔宮 本号活陀如來三尊 秀山代
 - 一 秀擔沙免 本号活陀如來三尊 貞治代
 - 一 功徳養院三尊 本号活陀如來三尊 一册 貞治代
 - 一 祖師聖人三尊 本号活陀如來三尊 二幅 貞治代
 - 一 少画傳 本号活陀如來三尊

境月略像

牛比御尊の御立地
 當江の
 夕一ノ

芭蕉翁
 川崎の御立地
 鴨の色

雲山ひより
 風立翁
 立言ひより
 あの鴨

新造孫為則南翁
 世月

正若九寺
 仙光寺門法意山寺

本号 阿みた

南寺の御立地
 寺の中身御立地

市山

○池田院の
高所、天台宗の池田院と云ふより之ハ
近所にて、その古稱もさだらるる也

○池田屋敷
塩丁事、池田屋敷、御寺の後の池田上
の、池田屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、

○福壽社
少社南向
塩町事、在池田屋敷、近所、池田川
端、池田屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、

○竹俣侯別業
新居、南上、島、池田屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、

○山内山翁の屋敷
山内山翁の屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、

○戸田町
蛸屋丁、信濃、池田屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、

○万石
中上、手、池田屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、

有り、池田の料理人町と、池田表の流ハ、弟、池田元智の
池田にも、戸田町と、有り、池田丁、池田の、池田屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、

○池田町
池田町、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、

○池田屋敷
池田屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、

○池田川
池田川、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、

○池田山
池田山、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、

○池田寺
池田寺、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、
池田屋敷、御寺の後の池田上、

○中尾所

堀江町境割り此止三木橋町
南側は堀江町に属す南側は

法州より河津山門前に至り法州の時常は堀江町に属す
 市並付の宮殿町と申す其後法州に属す
 十少和町と申す其後

○堀江町

堀江町は堀江井の傍に在り
 上二丁堀江の傍に在り

右堀江丁ハニ此中ハ八町ニ在り此中ハ七町ニ在り堀江町
 本中下八町に在り其後法州に属す
 堀江町ハ改り

○堀江

堀江は上高橋町の
 北に在り

法州より堀江片町二丁目と云々其後七丁未年二丁堀江上堀
 改り其後法州に属す

○堀江片町二丁目

堀江片町ハ堀江の傍に在り
 堀江片町ハ堀江の傍に在り

○堀江町

堀江町ハ堀江の傍に在り
 堀江町ハ堀江の傍に在り

○五條橋西側

東側は五條橋西側

○五條橋東側

堀江の河津山

○堀江

堀江の河津山に在り其後法州に属す
 堀江の河津山に在り其後法州に属す
 堀江の河津山に在り其後法州に属す

日蓮宗三教寺

○長久山圓頓寺

○同所山側

明暦二丙申年奉創

堀江

○七面宮

○堀江

○七面宮

南院之寬文自中興而下中樞殿之建創之處終於燒燬在
享隆の始メレの地一易地

寺田書櫃之系

臨江山信行院

○寺坊為(以南)入山路
西側院自之七畝分
年亦地

本寺河内院 東山傳抄
作之傳

開基 空教玄慈上人

左親書寫人畫經

九十名名号

脇櫃

餘間

右前書寫正畫經

右師命畫十方元号光如素

本堂 書院 華別 教堂 庫裡 密閣

尚山在(西)方(所)に在て東(寺)門(流)順(正)と云(所)故(寺)て
改(元)暦(二)丙(申)年(自)貢(地)を(求)け(地)遷(元)文(也)申(也)
佛(別)一(方)回(寺)終(寺)乃(通)則(ゆ)て(輪)番(也)永(代)維(每)故
寺(中)旬(三)畏(回)向(也)同(三)部(妙)典(を)讀(爾)終(也)

臨江山信行院落銘并序

蓋當院者緝空教海の流專修門院の錦舞也正儒了
考考新玄慈州創の其地比屋乎街肆之交近隣乎
機門の右其封疆亦陋也仍相攸終治の西向而徙其居
于時明曆丁酉歲也殿堂門無經の嘗の浩増其舊
制聿成一宇室房百爾器備而唯闕一梵鐘而已固里
之人民以是為歎矣粵吉主久宗者告院主曰大凡諸
刹欲盛者則募諸寺の幹縁古皆捨也只預丐廣求而
為一陸以簾之可也乎院主諾焉於是吉重等入邑入縣扣
於檢士叔隸貴女公子門僅可期月願得洞藏の資矣
乃命息氏陶干皆滿干斯干鼓鉦華榮然而成已
無尊薄侈弁之病豈有石楮柞鬱の聲哉矣
首楞嚴經曰娑婆世界耳根最利故用音聲以為佛
莫時之脩短書誦之制夜梵之益日之賓餞月之送
迎悉萃而備于器其或霜降鳴之曉團蒲爇

省風送來之夕奈利息業輪一向專念之法不教而選
通普入般舟四修相續之徒不期而寅夕淫淫梵摩矣
嗚呼悲增海濶劫利山崇豈堪以言牧羊哉可謂金
器也 銘曰

院臨江左 旭接蓬瀛 橐籥風動 鉅鑪新成

陷珠帶篔 為鑿者摸 清響濁劫 卜雨卜晴

群鵝暮散 宿鳥晨驚 破瓜皮獄 碎槐安域

懶惰警策 無常使令 通憂怨志 究悲武聲

扣擊無缺 小大皆鳴 沙石口落 不隨幽明

施蟲統獸 呵禁妖精 頂瓦匪佛 擁護信行

寬文三年癸卯春二月十五日

東海流下釋江天雙五屋識

○大船所

(西川河洲中橋北
北云系橋之側)

大船所

舟及北橋
芝入之宮之入

當丁傳洲表之廻間河之希廻百渡所之唱笛生夢中
六年比由河川船所之古所廻間之文字通用難讀也
天聖年上之船大舟町之改子田八也船所の義如舟の
字を舟ヶ中(古傳あり)

舟入所

(橋川河洲馬丁一町下
九尾河平中橋之側)

舟入所

舟入所
舟入所

長上之傳洲の引船之古舟船入渡所之唱笛生夢中
舟入所之義如舟の字を舟ヶ中(古傳あり)
舟入所之義如舟の字を舟ヶ中(古傳あり)

川島渡所今之舟所船入所在之西唐次近府也
之テ西の者古少少及お勸了二月為渡世渡山如字
並古舟所渡所高買致之也孫舟在之町各渡所
中(古傳あり)

橋舟入丁の名目ハ物川河洲者之也舟及青渡所ハ舟入
名目ハ舟入渡所ハ舟入及付方ハ舟入渡所ハ舟入

○泊屋町

(西川初瀬水車角の上) 左屋 礼儀
或(二)言(三)平(四)交
(河内産) (左) (右) (産) (産) (産) (産)
或(河) (平) (交) (産) (産) (産) (産)
或(河) (平) (交) (産) (産) (産) (産)

當丁建修自磨不知分海法... 引越其の者七の少... の愛... 引越... との泊屋町に... 活も之泊屋丁... と唱ふ... 町の奥街... 町内警昌... 六軒所... 西川... 九福... 泊屋町... 江川...

○六軒所 西川... 九福... 泊屋町... 江川...

落ル水... 出雲...

○出雲... 上細妻... 上細妻... 上細妻... 上細妻...

○上細妻... 上細妻... 上細妻... 上細妻...

○上細妻... 上細妻... 上細妻... 上細妻...

○上細妻... 上細妻... 上細妻... 上細妻...

13
○阿系神社

阿系神社 東中... 南側境

赤桐...

相官

糸律段間大権現 東向

五條ノ運部 東向

楊社

○稻荷

○新多子

舟殿 多井

本條體世常盤園ニ于リ 田貫多ク
市所仲居九十九ノ段ノ一區ニ
於テ新多子ノ像ヲ比在民分
於テ新多子ノ像ヲ比在民分

後醍醐天皇御宇ニ富士塚町清國氏邸ニ計行多クテ夢見
の比夢に楊社
一尋程に曉ヨリ多ク室曆十日申酉再建造營

大森山光明院

○唐井地洞窟 唐井地
西側寺地ニ及黄隆地

古寺

用山 月香香大和尚

古寺
唐井地
西側寺地ニ及黄隆地

苗鹿古 北指東ノ唐井地
の長愛に易地ニ 唐井地 西側寺地ニ及黄隆地

○神水宮

祭神 仲野皇女御宮

中ノ十古 邪歩 湯立寺

陰歷時代 不知

○新多子

右指の梅樹山ニ梅あり
社地東南七間南山ニ在リ
陰地九月十日邪歩湯立

同(持分)

東門院

淨信寺

○唐井地 右指の東南角
西側地ニ在リ分自夏地

古寺 西海院

用山 不詳

唐井地
古寺
西海院
用山 不詳
唐井地
右指の東南角
西側地ニ在リ分自夏地

宝曆十一年 先師の代に再興せしむる
寺と良進の教懐 蓮の堂宇も
先師の代に再興せしむる

○唐井地 水車 江川 橋 取
北側地境

金袋山 蓮花寺

右 龍音
左 唐土

開山 深空 意信 松方 和尙

境内

福天 燈現

右 龍音
左 龍馬 社

三層

相殿 書井 堂札 寺の境内
完備の院年 劫後

昔の草堂とて 幽成 唐地 入 崇林 石坊 庵と 延宝 七 宗 承 宗
阿 為 邪 山 法 村 の 寺 号 と 謂 一 寺 と あり 也 慈 賢 坊 代
安 永 二 三 年 交 り 阿 為 邪 山 法 村 寺 号 を 改 稱 多 地 有 住 持 寺 号 史 記
為 光 院 新 創 開 創 住 持 寺 号 史 記 寺 号 史 記 寺 号 史 記 寺 号 史 記
清 徳 の 宣 仙 寺 末 刹 たり し 後 承 宗 為 光 院 寺 号 史 記 寺 号 史 記 寺 号 史 記

天台 岳 武 上 野 寛 永 寺 末 山 園 梨

八角堂 法華寺

○唐井地 水車 所 入 少 地
北側地境

中寺

東向
八角堂 中寺

開山 雲門 和尙

中興 開山 惟摩 唐院 七 世 無 諸 僧 師

15
当山の法名中より 有る所に 有る 地 寺 住 持 類 類 寺 号 史 記
世 年 法 燈 教 の 弘 力 以 て 再 興 前 法 燈 院 口 比 勢 地 取 本
所 に 自 貢 地 水 引 敷 後 鳥 居 丁 七 坊 地 久 住 山 法 花
寺 密 法 院 三 十 六 世 僧 師 終 終 の 再 興 寺 号 史 記 住 持 福 泉 寺
地 名 寺 号 史 記 新 創 天 台 律 寺 号 史 記 武 上 野 岳 山
末 刹 寺 号 史 記 別 堂 八 角 堂 水 深 井 寺 号 史 記 寺 号 史 記 寺 号 史 記

舟形を了る爰に引橋を實五段十額を了八角造り即ち
之類の形たる民皆け多うと八角窓と窓に明之板八角窓
引橋の事係九段年也

○引水井

引水井門印の方。在り四方有りと云々
井戸の形。在りた。石碑。建つ。至面
橋の事。引水井。用。水。石。未。開

引水井 天五みだりし

正徳記

永田道守卒後之改出

享保九甲 辰正月

○水戸町南側南方
古月

古月記 長圓寺

長圓寺

古月記 長圓寺

岡山 祐喜寺

古くは内島郡一郷に村にありて自今之昔長九段の事あり
の建創し頃を後卒りて今に至るまで其意に未だ引水地あり
りて西段に懸橋ありと當り毎年の処あり引水地あり
十中ノ榮光院

引水地 南側 西側 古くは引水地ありと當り毎年の処あり引水地あり

○引水井

南側 西側 古くは引水地ありと當り毎年の処あり引水地あり

古くは引水地ありと當り毎年の処あり引水地あり
りて西段に懸橋ありと當り毎年の処あり引水地あり
十中ノ榮光院

○五條橋

上島町 五條橋

○引水井

引水井 古くは引水地ありと當り毎年の処あり引水地あり

鳥取橋 寛文乙酉年 前の鳥取橋を爰に朽し依りて
道筋代りて新橋の号あり程多し
是は南側ありて白多道ハ橋田地の也。取ら

△後是

(此、其廣町御旗所の塔、東の大堰町下三橋
前傳地の内、福ハ寺所より、欄町迄、上ノ
臺ニ限リ、南ハ車掛所、大凡ニ近、之月)

頓宮

(月殿
多夜)

(是、其北山、山、則、事、所、所、日、境、方
學問之、御旗所、と云)

毎束、即、十、七、日、御祭、礼、神、輿、後、御、の、地、之、境、内、所、系、に
有、一、有、一、町、一、先、例、の、協、所、幕、正、打、礼、事、体、名、所、也

御旗所、東、山、下

天台三ノ九、御旗所、寺

歸命山、東、新、寺

禪修所、事、如、心、下、寺

单寮

又、其、東、山、御、境、内、東、九、橋、寺、也
西、十、七、日、一、天、南、七、十、日、御、祭、人
北、八、橋、寺、御、所、御、旗、所、車、馬、十、三、間
寺、所、南、山、御、旗、所、御、旗、所
御、旗、所、七、十、日、御、旗、所、也

東海山、白、林、寺

塔、院

惠、德、寺

御、旗、所、釋、迦、心

定期、依、古、(案、上、ノ、所)
音、斗、坊、御、旗、所、新、建

惠、雲、庵

南、山、蘭、叟、和、尚、大、德、院

寛、永、二、年、正、日、十、寺、卒、去

寺、山

五、二、寺、也

大、德、院、白、林、院、真、指、宗、心、居、坐

寺、願、百、石

(此、其、南、山、石、松、村、河、原、村、在、御、旗、所、内、也、所、也
故、云、御、旗、所、下、寺、上、ノ、義、境、矣、下、居、元
成、寺、上、ノ、十、寺、院、公、御、旗、所、也、也、)

客、殿

余、ち、ト、遠、人、云、閑
掛、一、寺、院、例、也、也、也、

東、海、山、願

三、回、願、寺、系

○、經、卷

当、山、ハ、御、旗、正、成、期、長、の、為、に、寛、永、二、年、

御、旗、也

義直公御叔當の地たる以曆三丁五百寺院表上
 の所より成程正虎朝臣再建之 雜記圖書云從五
 位下布護少尹者名姓成順年人正成社而相より
 勇と以て成を起し三州出生の侯たり寛永元年十月
 病依聖正正月於東武卒去于時年九某後遺命
 豐州日光山 大権現即靈廟の傍に骨を埋築墳
 大僧云天師傳而碑を立徳に亦尾尾城南に
 公建一寺白林寺と号して是也

東海山白林寺後記

東海路尾州名獲屋東海山白林禪寺華鯨指
 岳之從士伽師憚墓再補寺 銘曰

文珠行得白推禪 全體通身一口田
 上堂寂矣下堂報 驚起人太多也眠

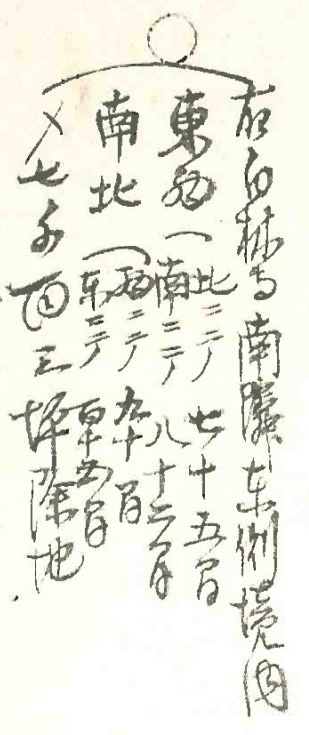
寛永九年辛丑年臘月十七日

前住師心黙禪全宣撰

此寺之居白林寺也代唱堂和尚隱居の地大徳町の下ノ
 寺傍門より寺後傳傳向西側寺前高木松あり
 一を寛政三年二月代りて三月に寺を遷り
 僧宅とあり

瑞雲山政秀寺

瑞雲山政秀寺



本寺觀世音 十一面 作あり

元和自中村創 南昌院
 台亭白卯年江天 孤雲軒
 造立元和七年 塔院分作竹

開山勅蓋圓通無礙禪師法房大和尙

天正三年丁酉正月十九日

政秀寺功庵宗忠大居士墓跡

平中務丞政秀
志智邑二十一年

長安元年正月十八日

負松院殿日雅若照大姉墓

後醍醐天皇女
日雅公令電之

普孝院殿圓禪真空大姉

致三佛女唐揚大
細去原藤中

善昌院徳岩常英居士塔

左衛門佐藤四
信政

圭庵露白居士碑

津田九郎次郎
信徳

唐揚大御所源忠幸公ハ号「祥光院殿」唐揚家中興ニ而實ハ
式部卿智仁親王ノ弟也之唐州(唐揚)向唐揚郡(唐揚)智以居候
長安院殿ハ普孝院殿ノ御母堂也 善昌院信政ハ長安院殿
顯若ノ義前(唐揚)率去 圭庵唐揚細ハ長安院殿令電之也
唐州(唐揚)也

唐揚郡

唐揚郡由造

寺唐揚郡

舊録(唐揚)○天正十一年八月五日信雄判本
唐揚郡(唐揚)トアリ○文禄四年八月五日唐揚
唐揚郡(唐揚)トアリ○天正十一年八月五日信雄判本
唐揚郡(唐揚)トアリ○天正十一年八月五日信雄判本
唐揚郡(唐揚)トアリ○天正十一年八月五日信雄判本

御守殿内仏 土面祝世書

信長公
唐揚郡

吳宝竹抄ノ用

一 達磨架御裳

信長公南化架御裳

一 香盆

信長公南化架御裳

一 信雄長 矢部 勘多忠 為之 吳宝竹 制札判形

一 平山主計 政制札判形

一 唐揚郡 唐揚郡 唐揚郡 唐揚郡 唐揚郡 唐揚郡 唐揚郡 唐揚郡 唐揚郡 唐揚郡

唐揚郡 唐揚郡 唐揚郡 唐揚郡 唐揚郡 唐揚郡 唐揚郡 唐揚郡 唐揚郡 唐揚郡

一寺境増地相形地文ノ寫

於境園 自坐院殿の廟西御道立當り隣
 東西南北

南方より八拾畝
 西方より四拾畝
 北方より七拾畝
 東方より五拾畝

此地、作付の旨永境園の如く物出物
 元禄五年丁巳八月廿五日
 林右衛門助
 田代四郎判

改修寺

折当山六條田御信長公の長平日中勢を備改修と云士
 吉信作信長ノ附屬(ま)つて老の一人之信秀卒去此後
 信長不形義たるに依て仰信長ノ御及及び信長ノ附
 目州志智邑、之く目録をせり(信長死ハ)信長志を
 深く感、之ひて御家の一寺を建て別改修寺

号ニ改修、ある事、其の
 の志を繼ぐ、信も南より元龜三壬申年十二月廿五日
 之弟合戦に逃に河記を遊ぬ二代改修義也(信元)寺
 当西(山)村と云々に(信)剛(信)長(の)後(一)孫(ハ)
 代要り、亦その也、核、云云、二十二年、此、宗、創、也、也

尾州毛部郡 昭雲山改修寺 隆銘 並序

史當山者 前在古臣 信長公為平日中勢を備改修追薦
 勲、漸及一百年也、曾有、一、隆、不、陞、樓、擊、之、久、願、聲、
 忽、瘞、矣、嗚、呼、行、季、再、祭、園、音、乎、與、事、不、獲、已、相、
 衣、鉢、之、資、解、赤、相、價、隆、既、新、成、矣、蓋、隆、光、格、
 用、也、告、危、之、聚、教、鼓、時、早、晚、警、幽、冥、之、夜、掃、安、
 想、之、興、古、增、一、所、合、之、若、步、隆、時、一、切、為、道、諸、若、無、信、
 停、止、矣、其、利、幽、明、者、寂、大、平、哉

橐籥驅風 爐炭香紅 鏢千鈞鐵 海一梵鐘
 四方四告 三疊三通 嗚空有盡 皆為無窮
 寬永五年辰年土月初三日
 前如の改修三槐山叟謹書

當寺三世槐山再續以障宮夕鳴之敬言前者五十余丁皆
一旦殺石矣遐迹無不覺是當憂也仍命鳧氏革之廟之
則勒石於乎洗向而洗先哲之功作於悠久也予又
速短偈為三入燭之證矣

當寺の門前恩福に居し蛙ハ山の聲と鳴る他に務しと云

○善宮東町屋

社地少葉押廻ニ
長巻ト成ル

前方ハ古木枝繁リ澤邊

て東の方(押和)白林政秀兩寺門前し及申後少少方の
少キニ申一踏く兩方本御年大樹枝を度後但村本多言々
申さるりし宝曆元二の年山持御用干路ハ廣海町屋を
再建ル干村方等為百位しと云人
長巻ト成ル 燈ノ夜最立る

百根、妙數を燈りして

此五ノ為

涼風や海に散ありくかんる層

○淡島明神社

善宮東町屋
中務政務寺門向

尼寺

善宮○命多祀

宝曆三四年の比中務郡一宮邑おの大塚村に命多
多長命立ル祭禮正五九二衣の月お申言陽立お眺り
抄入に山月年とも由縁を問ハ 御鳥御神略縁起ハ先
御鳥御神ハイハ名ノ命ハ西夏ナリ 大己貴ト御一神ト
而三別神也九ツ五穀豊登醫者呪詛神居之在矣ハ
司命殿と稱リテ万民ニ福壽ヲ與ニ在也ハ粟津神ト稱リ
テ一切ノ病者ヲ救ヒ殊ニ婦人女子ノ病者ヲ叶ヒトハ
御鳥御神且神木ノ芭蕉ノ葉ヲ剪テ遺射ハ信心ハ四丁万病
治セしと云子あり 而今之芭蕉是る初メ此神廟をば
中務郡子生御村ニ祭祀ト一宮別社トて子安宮トモ
子生御神ト稱ス長年申一々同中務神ト云フ影ト
此山信ハ長民ノ海邊ニテ岐岨川ノ落合邊の邊ニ且是神邊
浪の宿ニ中務ノ宮ヲ始メニ社ノ神ニ者押流ニ 天照神
之ハ海井村ニ遷志ト云フ至今神社あり是ト云事社ニ
三社ノ内ニ中務ノ宮ト云フ事ハ川邊海邊ニ在リ故ニ川邊ノ
年天とも云干御神ト云フ事ハ川邊海邊ニ在リ故ニ川邊ノ
無願回の上御ニ 夫殿修列 抄ノ言山月年是地遷ニ

寺の地味家蕃昌病災皆除治政成就ノ御祐矣之境
△從是大地町下矣坊前付地ノ終

前傳者福内大徳町終西側
其他各間は南西平六町終ニテ
南山ニ移之月一ノ西南ニテ
早之宮ニ移之月一ノ西南ニテ
或大付終之月一ノ西南ニテ

寺門迄六條五多 陸家

寂光山瑞慶寺

塔院 平

法光寺

志山凡三十二ヶ寺

用山 終了地ノ房

當より三洲計傍揚慶寺通湖之地吉ハ六台ノ字ニ
邦當有言御起云云 天福三年秋八月御慶寺ノ地ノ
了由法所終矣知知社所御起慶寺ノ人同法所終矣
改有宗而中ノ子眞宗一ノ
年中建創為通所法江云云近府ノ官當也七條町
借免ノ事云云右傳物ノ寺院多ク其ノ地終了

當より此所終了上一岳反山狹持ノ事終了申付之也
持終了ノ一ノ字ニ西側ニ河三ヶ寺ノ地ニ寺ノ
修ノ本ノ上ノ寺ニ終了ノ事終了ノ事終了

修了の事終了也 上人

徳壽山傳海寺

客殿本字ニ号河終院如來

服士ニ善菩薩法格
定州ノ彫刻也

地蓋崇 (口正面西向堂形ノ玉塔造了ノ在也蓋高
安重加 民俗矣防地也終了ノ事終了)

開基 曠嘗 廓 龍 即 住

房終了ノ塔以康申院
世氣終了ノ事終了ノ事終了

寺地新田拾町

元福十二年十月廿九日
昭公 一ノ畠百ノ下
當年二月廿九日 宣旨御列ノ布

舟又天社

高峯竹生所形と據る 舟又天社 舟又天社

奥国志

東田面三河

元禄十二年八月五日在村郭神倉堂一 瑞云山自守... 易地家形之而年... 二世開山真意... 尚古也... 庄嚴者... 瑞云山... 寺之別由遺命... 境自他... 迫隣に弓矢場... 地籍も略縁起... 一人の民妻... 修行は... 其の... 寺の... 山の名...

しと... 山に... 瑞云山... 易地家... 二世開山... 尚古也... 庄嚴者... 瑞云山... 寺之別由... 境自他... 迫隣に... 地籍も... 一人の... 修行は... 其の... 寺の... 山の名...

長清院梵陀陀陀陀

天... 八月十五日

信德院善行慧心寺

伊室

牧氏... 瑞云山... 易地家... 二世開山... 尚古也... 庄嚴者... 瑞云山... 寺之別由... 境自他... 迫隣に... 地籍も... 一人の... 修行は... 其の... 寺の... 山の名...

清川路右衛門長義

清川右衛門長義

牧右衛門守長義

尾州春日井郡河村
地主母牧左近女

牧与三九河門長清

尾州尾州郡中津原
信長ノ母也

牧喜左衛門長治

春日井郡長久手村三任

如子 御井村御室

牧右門守長正

實長屋外

牧長左衛門義隆

法号宗元

如子長治村長正之孫也
如子長治村長正之孫也
如子長治村長正之孫也
如子長治村長正之孫也
如子長治村長正之孫也
如子長治村長正之孫也
如子長治村長正之孫也
如子長治村長正之孫也
如子長治村長正之孫也
如子長治村長正之孫也

牧助左衛門長勝

初平島長治 勢州大河内役十七年
其後尾州一益甲州天目山役
出功一益三益山入
初平島相州小田原役
初平島相州小田原役
初平島相州小田原役
初平島相州小田原役
初平島相州小田原役
初平島相州小田原役
初平島相州小田原役
初平島相州小田原役
初平島相州小田原役

牧助左衛門

牧右衛門守

牧日記

奉仕 尾云

○多尾先生碑

山世の筆跡人
尾州郡
尾州郡
尾州郡
尾州郡
尾州郡
尾州郡
尾州郡
尾州郡
尾州郡

○鏡塚

地無名
の方、在り

面

人心見如

春也

芭蕉翁

鏡乃

うと此

梅

碑背

芭蕉翁之在世也其出處世人所
委知撰焉故不復舉也翁以元
禄七年甲戌逝爰至安永二年
癸巳正當八十年矣夫以諸州所

築翁之墳墓不遑勝數予家有
翁之真跡一石以故鑄鏡寫之納於
壺中必事之士社中之徒勳力協心
築墳於清淨道場以表之嗚呼
景慕此翁者見鏡塚別如見
其人云爾

鷗沙謹書

○表門前 本朝 後古竹垣古樹 茂る今も 卯酉の垣り 土橋より
 安永元年 穀のこ竹本伐り 井堀を埋り 町を地ありき
 け 砌 古木の根より 土橋より 土橋に 水産獲の水指 茶碗
 焼物を多く 掃りおけ 上へ 土橋に 有るに 時代も 不詳
 樹は 柳生を 茶碗の 跡に 土橋に 埋り 土橋に 埋り 土橋に 埋り

安永九年 田子の 表門 通路 茶店と 土橋より 田子の 表門
 田子の 常夜出 して 東田面 の 町を 常夜出 して 土橋より 田子の 表門
 ○常夜 東田面の 字に 町を 常夜出 して 土橋より 田子の 表門
 表門の 有る 田子の 表門に 土橋より 田子の 表門 土橋より 田子の 表門
 初年 土橋より 田子の 表門と 土橋より 田子の 表門

○古地 表門 向 勝鬘寺 南境 田子の 表門
 土橋より 田子の 表門 土橋より 田子の 表門
 土橋より 田子の 表門 土橋より 田子の 表門
 土橋より 田子の 表門 土橋より 田子の 表門
 土橋より 田子の 表門 土橋より 田子の 表門

白地 土橋より 田子の 表門

表門の 土橋より 田子の 表門

○表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門

○表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門
 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門
 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門
 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門

○表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門

表門

表門

表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門

表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門
 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門
 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門
 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門

○表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門

○表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門 表門

表門

表門

○舊塚

(復原の地) 南隣

古塚の古樹の枝葉
たり云竹少北條家 在福倉の比帝於一の儀二里極
と申迎キ比右の枝を伐リ比右に勲を血の流し
由海人々此處を以て伐りし枝を以て迎死に於て
知希に於て兩塚の上に小社を建テ今より在福の徳
守とあるとあるの塚上の枝は富曆十辰年の凡に
折し多瘡疾の如き事といひ人々此塚を是れ梵阿
の比乃祭儀と云ふ也

○五社神社

大徳町多々場(古寺)

古寺

五社神社

五社神社

五山塔院 福壽寺 福徳寺 天徳寺

通古社古井村他處は街及寺堂の三社の東邊東の村に
年々修葺し初年町に其豊前夜山と云ふ門額あり
張右御町下戸福院の社といふしと云ふ氏中興

護方たに有立由河すての一節り社と云ふし祭礼も社
古祭昌せり于富家曆之己年用あるなり七七年も
孝柳所あり細ありて之を破却しと人の長に
之れも色しありて之を村邊の之地に移し

福壽寺古井色光寺

警五山東山院

前傳存元白山社地の向
西側境内にお臥る福壽寺
此二千年前築地入り路
五社十二歩に如し

南向

客殿 寺の阿波院 作不知

七堂の目録 寺堂の事

開基

徳翁和尚

寛文三年此人

中興開山正冠和尚

古社たれは 詳況修葺なし中興の正冠僧比とハ廢絶草
堂より出草際此元と云ふ社地にまじしを後因表に

と云彼其御堂のりい尚其御堂の真如へ一因承居
あり其々の地にありしと云 悉く此縁寺僧も其の地を
ありし程圖も定方難し

○柳ノ梅

(在東山院南(り)東の田)
○院堂 (と云、其氏(の)比(七)縁(の)用(之)
少(少)縁(縁)南(南)東(東)側(側)
東(東)院(院)山(山)邊(邊)の(の)字(字)之(之)牧(牧)氏(氏)権(権)臣(臣)の(の)
地(地)を(を)御(御)一(一)極(極)富(富)の(の)所(所)と(と)云(云)傳(傳)り(り)○

○池の内

東門院修少(少)ま(ま)る(る)寺(寺)

○前(前)山(山)寺(寺)院(院)の(の)南(南)西(西)側(側)
境(境)内(内)

東(東)運(運)寺(寺)

古(古)寺(寺)跡(跡)み(み)だ(だ) 後(後)西(西)側(側)

前(前)山(山)寺(寺)院(院)

當(當)古(古)の(の)字(字)之(之)牧(牧)氏(氏)権(権)臣(臣)の(の)
府(府)下(下)八(八)重(重)所(所)に(に)建(建)創(創)す(す)后(后)
宣(宣)永(永)八(八)卯(卯)年(年)易(易)地(地)委(委)不(不)知(知)

石(石)地(地)名(名)

享(享)保(保)二(二)十(十)年(年)西(西)土(土)見(見)系(系)繁(繁)花(花)の(の)長(長)村(村)計(計)出(出)と(と)云(云)一(一)
事(事)全(全)高(高)一(一)と(と)云(云)其(其)の(の)考(考)を(を)考(考)へ(へ)て(て)當(當)中(中)の(の)西(西)側(側)に(に)縁(縁)
あり(り)其(其)の(の)考(考)を(を)考(考)へ(へ)て(て)當(當)中(中)の(の)西(西)側(側)に(に)縁(縁)
上(上)の(の)考(考)を(を)考(考)へ(へ)て(て)當(當)中(中)の(の)西(西)側(側)に(に)縁(縁)
其(其)の(の)考(考)を(を)考(考)へ(へ)て(て)當(當)中(中)の(の)西(西)側(側)に(に)縁(縁)

福(福)曹(曹)乃(乃)考(考)寺(寺)志(志)

壽(壽)量(量)山(山)長(長)松(松)院(院)

前(前)傳(傳)地(地)在(在)樂(樂)運(運)と(と)云(云)了(了)
計(計)り(り)南(南)西(西)へ(へ)入(入)り(り)其(其)の(の)方(方)に(に)
門(門)東(東)向(向)ニ(ニ)テ(テ)り(り)地(地)圖(圖)と(と)云(云)文(文)
巨(巨)眼(眼)を(を)と(と)云(云)

物(物)考(考)十(十)面(面)記(記)考(考)

宣(宣)應(應)元(元)年(年)比(比)近(近)池(池)尚(尚)寺(寺)の(の)地(地)名(名)

萬(萬)曆(曆)十(十)八(八)世(世)全(全)藏(藏)和(和)尚(尚)

協(協)中(中)母(母)

壽(壽)院(院)社(社)人(人)

○春(春)日(日)大(大)明(明)神(神)社(社)

前(前)傳(傳)春(春)日(日)明(明)神(神)社(社)
北(北)側(側)南(南)向(向)大(大)寺(寺)

大(大)寺(寺)藏(藏)寺(寺)人(人)

祭(祭)部(部)

廿(廿)一(一)殿(殿) 曲(曲)雷(雷)部(部) 廿(廿)三(三)殿(殿) 三(三)澤(澤)池(池)原(原)根(根)命(命)
廿(廿)二(二)殿(殿) 齋(齋)主(主)命(命) 廿(廿)四(四)殿(殿) 眼(眼)部(部) 廿(廿)五(五)殿(殿) 左(左)右(右)部(部) 廿(廿)六(六)殿(殿) 右(右)部(部) 廿(廿)七(七)殿(殿) 左(左)部(部) 廿(廿)八(八)殿(殿) 右(右)部(部)

和(和)州(州)春(春)日(日)山(山)回(回)社(社)前(前)大(大)明(明)神(神)社(社)之(之)隣(隣)歷(歷)代(代)名(名)傳(傳)前(前)々(々)牧(牧)氏(氏)
の(の)建(建)創(創)に(に)や(や)り(り)前(前)傳(傳)の(の)邑(邑)民(民)老(老)幼(幼)皆(皆)々(々)以(以)て(て)祭(祭)祀(祀)八(八)月(月)十(十)八(八)日(日)

夜試樂十五。湯立。神手杖行三篇。神庭田。

○同西春日神社東隣北側境内

本寺

湯立春日神社

平

夢壽山春昌寺

開山 徹源 和尚

此の山は片堂二五身。信州曲隈郡大矢田村。古村。末刻。同邑。ある。云。古。記。ある。幸。文。引。し。信。國。以。幸。也。如。當。の。退。院。の。地。に。取。立。う。せ。七。世。の。際。取。而。と。云。

○笈堂

牧氏造立 七世の田

七里渡にいと路と云。梵阿

翁傳曲傳の間に仏圖を多く、建創後、僧唱れ、終りの堂に、まゝ、答を納メ、中され、各、建、と、惣、テ、南、山、西、村、の、竹、細、の、節、を、引、ト、居、と、云、井、戸、田、た、う、と、云、(り、左に此をい堂及、昔、月、地、面、の、邊、を、考、へ、し、

○富士丸

前河内 車南方

東の田前と云。し、遠く、信、藩、三、り

此の山の山、南、八、町、寺、系、北、を、渡、河、街、乃、並、寺、系、と、引、如、く、近、キ、山、に、村、邑、人、里、う、ま、極、に、海、り、眼、力、に、上、地、を、り、亦、七、を、堂、と、して、古、松、の、言、文、を、文、多、も、果、く、あ、ま、山、を、河、路、の、橋、投、岩、村、山、の、邊、間、に、及、キ、あ、し、尺、く、多、敷、け、号、を、り、こ、れ、も、山、而、山、と、ま、ま、に、れ、が、ま、と、く、信、に、介、し、り、し、に、家、水、の、號、山、信、に、ま、そ、と、い、極、し、し、と、ま、や、橋、投、山、の、か、し、水、の、方、に、當、り、元、久、の、比、ハ、勢、繁、施、の、地、と、云、り、人、家、都、と、云、く、勢、繁、の、極、ひ、たり、し、も、無、極、田、相、と、云、り、し、に、亦、退、く、亦、と、違、り、形、と、違、り、新、て、所、並、と、云、り、後、系、唯、を、府、り、分、一、邊、の、邊、地、た、れば、各、り、屋、禰、と、云、り、越、民、程、集、の、地、也、

○和雨亭

半野庵

是也、有、新、田、在、の、地、之、為、亭、丸、ん、海、の、七、系、剛、僧、各、所、の、毎、回、祈、り、も、永、在、爰、に、畧、

- 東嶺孤月
- 路傍古松
- 蓮丘榕樹
- 海天新
- 竜興寺鐘
- 市門曉鶉
- 隣舍春歌

○人仗の場

(古くはこの掛取境内東北の方に在り石寺遺堂に由るもの西へ易地様相付致して有一條の方より古くは南向にあり) ○古三味掛取の南東と岩田村が掛取の北は焼取也

○古取の場

○割取 ○経堂 ○雲下 ○草益長屋

○茶店細

(古くは他より在り) ○田代家 ○豊田所

○信屋所

○一戸孔町 ○志やぶ波所 (押取の古くは信屋所の南東にあり) ○三好在り

○掛取前

○旅籠町 ○夕下 (掛取の南東にあり) ○芝坂地 (掛取の南東にあり) ○三好在り

○常楽寺

○掛取前 ○松丁 ○吾高寺 ○日光院

○常楽寺

○春日 ○三好 ○里民の家

○通称多

○委致記

○古城墟

正古後邑地
子母ノ方角

曲輪の内凡五約七八步南北

幸亡步は方立二重砲
城ノ信秀街車那勝備の城分稱名古金山亦天久
尚城を築て被辰次名男信長も爰に居りて
遠次の城に居る彼因幡山の赤坂を三と深んか
夜に城門の櫓に上りて室女の人と計り進しと
とけ城としてのもの代更りて廢城と成りて
今も新寺ノ石塔ありて堂宇いり可也並ふ
昔く書角古後の城と云は此地ノ

○古後邑地古後路北
新田と中興と境同南北
西格一間東西窄百ノ
分の吾九十坪陸地

寺符神輪古後下道橋係徒交代

東本願寺坊通

右 親書上人 巾像

根檀

右 布大湯西畫 教

餘間

右 石 聖徳太子
十字名号

親書上人
真存

歴代畫 教

○本堂

十五間
旧面

○客殿

○大書院

上段名号
二三ノ行

○大廊下

○大揚子

○庫裡

○坊舎寮

多し

○護国寺

○古教堂

表門
南

○茶所

○横門

石佛院
亦像

○櫻門

六字名号
安寺

○表玄関

○廣間

○矢本門

天照三神立
表門遠立

○惣築地

○表門

山口本口
二ノ階

開基

長祖師大智人
布山伊六世

無導光院大僧西一如上人

け地へあり、三好少政因信秀の城墟に、その後山本新田と云ふを
元祿三年申酉秋七月、上旬府下松所泉池多を堰テ、為通下
田自冬十二月、三日、補地三万坪、因に在国令、而移境、け地
目入申年、一建坊、会因十三日、厚厚、一好之入、迂化、り
大僧、真如上人、自一好上人、相承、元祿十二年、中、常源、造、
教、府下松所、泉池、多、を、堰、三、年、泉、池、寺、の、事、を、し、元、祿
の、始、末、三、條、門、主、多、由、の、程、望、に、由、て、厚、心、教、入、以、信、民、を、以、て
南、西、の、庭、館、一、所、入、形、終、に、大、形、殿、極、志、り、し、し、

付り、善持寺、松所、に、在、り、け、寺、始、泉、池、を、云、元、年、京、都、泉、池、寺、
兼、帯、之、園、基、祐、賢、天、正、九、年、八、日、自、其、日、建、之、高、志、在、物、の
村、に、在、り、其、日、十、年、自、引、越、元、祿、二、年、山、通、西、後、換、の
後、善、持、寺、唐、山、家、の、引、換、の、善、持、寺、ハ、教、條、云、坊、之、園、基、之
云、云、万、治、元、年、以、當、院、換、り、て、三、月、上、日、自、移、院、一、向、宗、の
僧、信、民、由、西、の、善、信、福、集、善、初、元、辰、年、善、信、始、り、當
院、年、春、三、九、七、十、年、に、お、終、り、于、同、日、自、七、日、其、門、於
真、如、上、人、迂、化、終、り、善、持、寺、の、柳、画、画、板、切、所、一、善、持、

橋門 後、善、持、年、在、り、物、古、恰、如、少、信、在、室、曆、七、八、の、品
七、の、如、く、大、に、造、立、せ、り、是、亦、高、志、板、切、し、賣、廻、し、
境、目、松、樹、多、之、苑、の、比、竈、り、一、在、坊、書、院、在、在、本、亦、も
善、持、寺、は、お、用、少、時、に、換、り、善、持、寺、は、お、用、少、時、に、換、り、 善、持、寺、善、持、寺、 建、立、り、
善、持、寺、ハ、大、形、殿、り、

後、善、持、寺、方、も、例

後、善、持、寺、正、眼、寺、系

全、別、山、長、常、寺

寛、長、十、三、甲、申、十、月、寺、殿

當山 大檀越 長常寺 殿
用山 明使 見 和尚 院

織田信長、信秀の姉妹大和守誦賢、其、之、別
信長、云、の、信、長、云、

波石ハ清洲表に坐り 迂府の御前津矣城改露との南方
易地指し之 負出限也心廓而政露とにわすのまに矣
年易地也 作如先境内の通り 家とてより在并月料
之 新地也所 也加有有

當寺依之 門建ハ乃易地於免知部 知得村の内
先境同之 通より在且又 在方ハ隣地也所加
之 作也 也四出也

元禄二己年 八月廿五日 田辺彦四郎
寺榮寺

金剛山長榮寺遷銘

日域東海路尾陽名古府金剛山長榮本禅寺者曹漢
一流通知市流而方為府城巨刹之負焉是天聖之
年一帝蒙 邦君之命舊殿於北華而新之爾堂
室之制法器具等無帝 舉維在古來可備而所關

者特大鐘也茲歲 壬午之夏但謀危檀募鉅藏
助乃雇冶工陶範困既而驅飛廟於橐籥招祝
融於于爐 輔鬱牧旋復金鐵躍冶功僅經數日
蒲宇新成矣按夫必之教懷實在音聞 德若
則月色彌地之夕 霜華 滿天 晨上通諸天下
徹方趣托一沐久 德焉 未後自披七條受韶阳新
定機村落慈首末 跨寺門礼佛同梵之心存催數邑之
向市廛 商客不登 精舍 琴 綠 涉境之情頓減
一邑之將之 欽之焉 禪林礼樂於是足矣嗚呼偉哉
欣其亦不可 竭 言也 銘曰

東海靈地 尾府福田 林隣村落 門接市廛
橐籥愛舊 摸範已連 華鯨陶鑄 蒲宇完全
號令百八 法規三千 不隔遐邇 豈謀方回
爾神爾鬼 或人取天 停酸息苦 策息脱纏
伏賴家國 握大平權 皇仁益傳 武威弘堅

檀越繁茂 子孫聯綿 永輝佛日 其祝有年
維時元禄十五年壬午歲秋八月廿日
金剛山長栄禪寺院禪峯謹誌

淨法寺惣院寺上人

○右長栄寺向別寺院
表南北寺に同表寺ぬ
平河田入勢の寺を平河院也

如きの所路院 作字
元禄五年十月廿日

開山 高岳院 信蓮社 单峯 吟哲 性海 上人

由ちいふる中洛部奥田村に日輪山勤達寺連三洲正眼寺の
赤山より遷移たりしと云ふ事元甲子年川寺の叙江藤田三
宮年寺地相別創建創極香院と云ふ事右宮子寺地
相別院又寺社寺より元利形正持寺より南宮の叙
從馬寺御堂と云ふ事菩提院建也上云毎お心念力金

拾貳部五分宛たり重々 安永三年自と五段

○船屋町内富寺より南側
境

日蓮宗橋町妙善寺
經正寺

當と開基妙善寺五世長前院日影上人
中興開山妙善寺七世宮正院日影上人
宝曆二年自と五段
妙善寺地より信蓮院の地へ慶徳の末代に寺と云ふ所
恒業と云ふ也 けあるの町名と恒業院と云ふ也

○修徳町下寺廟 掛字あり
寺境町並の首妙

もるのみに 開山 備前氏より豊坊

後附

蓋斯寺也貞享之初罹于山變圍圃日久矣因有國君命賜金刹於吾本山准上人以此洛東禪林支派也而改号於瑞雲山崇國寺雖先師希君恩欲速主職時也乃滯風痾遂不肯忘故令告小子居士住此寺察師告令敢先代道弟次補缺不日偃風荷充志願焉見其有墮而無樓未詳其本緣同所以施主且請樓造雖然無如何務賊產故募法界衆添增自室管於樓宇高掛洪鐘外金索示時順道屛策為法器而已住持貞暉為記管樓辛酉備後驗授筆即書顯末云尔祝曰天子萬歲將軍千秋大守安寧天長地久

持世沙門貞暉謹誌

○心本堂 以名不虛也

○（？） 町寺

日蓮宗一教寺同妙蓮寺末

真如山玄象寺

用山

同所為言雨湖地固為家南也
其地有之七寸北側也知地有
其地有之十一向南側也知地
其地有之其地有之其地有之

○（？） 寺

金蓮山本道寺

寺名 阿多陀

用山 機深院大真良運大匠作

當寺の古一傳剛加町に寺用基時代不知良運坊多現地也

歷代の世傳安易地傳次之、古昔嘗の古
地面の西之山を以て、自貢領と云

○ 檜町東表伝、西別南ト
小坂有、後南南北、其間天、古高
早、言、定、計、坪、十坪、隆地、山、前、庄、

移曹、嘉、町、善、篤、寺、末

年

虎風山、新、雲、寺

古、高、虚、空、經、井

信、名、記

永、福、土、居、自、方、り、延、化

開、山、南、桂、泉、大、和、尚、禪、師

後、傳、剛、易、地、傳、レ、化
地、傳、自、不、詳、
墓、石、に、古、十、五、輪、多、く
是、て、舊、地、ト、云、ゆ

左、目、り

○ 後、雲、山、隣、境、南、北、其、間、一、天
東、西、早、記、言、定、計、坪、十、坪、隆、地、

西、殿、山、功、徳、院

古、高、地、為、井

秘、伝

世、に、當、り、也

○ 龍、言、堂、十、五、更、り、也

開、山、超、龍、見、和、尚、禪、師

後、傳、次、易、地、傳、レ、化
古、史、伝、に、古、十、五、輪、多、く

○ 功、徳、院、北、隣、境、南、北、其、間、一、天
東、西、早、記、言、定、計、坪、十、坪、隆、地、

右、目、り

延、壽、山、金、仙、寺

本、堂、有

古、高、三、言、何、み、だ

信、不、知、也、
作、無、迦、迦、代、カ、ル

○ 地、為、り、
其、言、也、
札、所、

中、興、五、世、光、月、道、普、和、尚、禪、師

後、傳、剛、易、地、傳、レ、化
不、詳、

久、保、山、建、昌、寺

○ 金、仙、寺、少、隣、境、南、北、其、間、一、天
東、西、早、記、言、定、計、坪、十、坪、隆、地、

古、高

開山 南桂宗 宗大和尚

永祿土庫屋年七月廿八日寂

二世 情日逸公 座元 福那

享和元年甲申八月六日卒化

開基 本朝 月照院 秀信女

文祿元年壬申十月十八日逝 垣原氏之

南首の天正元癸酉年 垣原加賀守 信洲の城下に建立 迂府の柳り付処へ易地 寺名 委中 佛院等

東岳山室の佛院

○康昌寺北隣 古内南出十二間 五十名 毎四七五七五メ 多々 七坪 淨地 堀在

寺名 所跡 院 觀音 三尊 寺日氏作

淡樂像 重疊一幅 蓮唐像 毘沙門尊

法古開山 不詳

中興 開山 當寺 八世 貫天 耕牛 和尚

信狀 加可に 寺にて 歴代久之 至後 因心 寺に 易地 佛し 在 國 歴 亦 不知 寺名 信長 公 城 中 内 以 寺 古 八 云 山 流 傳 年 改 流 あり

日記

○室泉院北隣 山ノ角ニ 境目 あり 八 町 半 一 坪 淨地

五孝の山久 落り 寺

寺名 阿波院 作あり

付記 涅槃像 重疊一幅

開基 久 著 守 心 和尚

是 佛 坊 跡 あり

信洲 御所 迂府 の 初 易 地 歴 代 坐 落 在 也

是と 六ヶ寺ハ 表河 菅馬 寺 末 山 也 土 坊 内 六 院 在 殘り 六ヶ寺ハ 表河 通り 南 寺 院 の 裏 合 也 寺 記 不

○法馬 寺 地 子 町 跡 (万 古 寺 口 前 在 所 筋 通 り 出 南 側 山 押 迫 し 片 町 京 保 寺 年 別 あり)

前席地古多至寺向東側地月

南北(西) 東百五十石

車苑(北) 東百五十石

× 北門 二石 九坪 隆地

後曹法也 寺持寺末

龜嶺山 万杉寺

末山 九十二石

塔院 七石

福壽院

永昌院

万年

法石院

閑山 大雲、永瑞、大森、高、海、院

易地 當山七世寶光 隆堂 福院

大檀越 前海後大守 龍藏道見 本堂

高深院 殿大 藏宗 檀大 禪建尼 佛雲

義直公 御篇中 海經 紀 伴 昌 幸 長 房 息 女 之 寺 在 之 右 石 之 言 在 古 藏 田 氏 宗 附 新 聖 寺 之 右 寺 深 院 殿 香 檀 之 寶 則 也

寺 院 之 名 先 件

是知那 名 在 殿 村 内 舊 領 之 言 在 同 部 森 村 内 新 加 妙 石 名 文 德 四 年 乙 卯 止 百 石 名 寺 朱 官 佛 寺 之 右 石 之 言 在 寺 深 院 殿 中 下 十 但 山 門 在 殿 南 十 石 也 忠 善 心 寺 長 寺 自 乙 卯 年 始 在 殿 村 内 之 言 在 寺 深 院 殿 中 下 十 但 義 直 公 御 篇 中 三 百 石 名 寺 在 殿 村 内 先 友 云 御 篇 中 寬 文 七 年 乙 卯 止 百 石 名 寺 殿 長 寺 自 乙 卯 年 始 在 殿 村 内 之 言 在 寺 深 院 殿 中 下 十 但

振替々之由用山と云々雲興寺を退院の時偈アリ
 一十三年往坂山
 李鳳耳藝寸る用
 這回却愧嶺猿笑
 不到孤岑向里還

竹田白

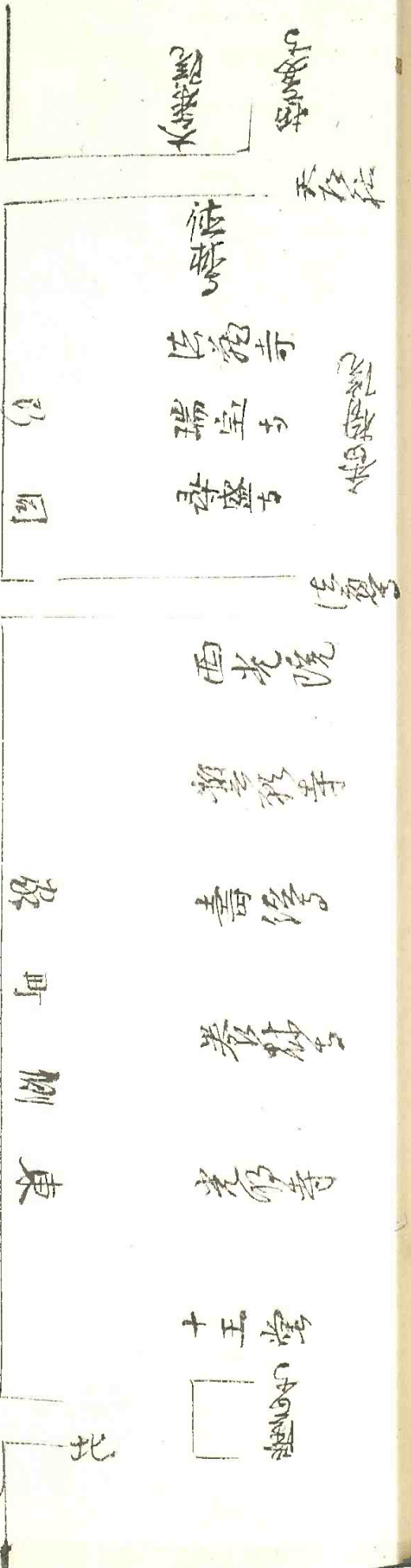
○李鳳琴

山田山町、琴をし習うて、三原院敷に宿也
 阿しとけ寺に細く、三宅長赤、後世し時に開くワ
 リ、青具、く、其、琴、脚ハ蒲菊、唐景、彩、多、る、り
 長赤、多、る、り

うきとせとせ海し、若の細く、若くは加ゆる、松風の音

○東北、竹、補之梅、二幅、古法眼一、子、席、風、琴、其、書、益

△長尾、南寺町、分、花屋町、北と境、南、天、及、町、辺、と、
 西側、と、境、と、形、と



花屋町、北と境、南、天、及、町、辺、と、
 西側、と、境、と、形、と

静光院、西、日、出、寺、毎、年、
 氏政山、隆、正、寺

古寺、河、み、院、

寛文七年、土、月、晦、日、遷、化、
 用山、養、徳、寺、中、身、祐、蓮、祐、也、養、上、人、實、門、大、和、尚

尚、ち、ハ、相、徳、院、敷、申、婦、女、臨、白、院、及、
 代、山、大、和、守、氏、徳、堂、
 山、大、和、守、氏、徳、堂、
 山、大、和、守、氏、徳、堂、

十五堂 地蔵子 十五

塔院

吟字房

開基 天崇吟字房

世古將徳洲 吟字房 立之 悟光の境内に於て建之
前々吟字房と号す 其後暫く爲の処に於て七代崇徳
印上人 崇徳二年 爲之 爲之 爲之 爲之 爲之
爲之 爲之 爲之 爲之 爲之 爲之 爲之 爲之
安永二年 爲之 爲之 爲之 爲之 爲之 爲之 爲之 爲之

徳南山光明寺後記

天心境無二任干其境發於感悟 祿林悟意律宗戒體
世人不知也 我寺者念仏三昧道場而殿堂略備勸導盛
法雖物汚鏡未成 意不闕乎 故欲造梵器寄六八竹
廣求資縁時 我家機普應 志願速解 於是梵聲能
頓驚長夜 夢全浄 邦念他則他兼濟 孰如吾至
若一人善滿一家 一家善滿一國 則普天普地 以爲佛門

靈威 吳所 冀 十雨五風 於華幼之德化 因豊民安
利益無窮也 銘曰

庵域 南刹 佛日輝燄 慈雲放德 稱揚念名

天運時到 感應機迎 華縣新掛 蓮社響清

昏眠晨覺 淨信久生 護民鎮國 長傳其聲

元禄十年 丁丑十月十五日 尾陽徳南山悟道院
光明寺弟十三世幼進頼主 誠蓮社 謝詞實 謹書

光明寺所

二つ 徳節の花包丁 寺
廻り 十五堂 弟十三世 頼主

町代 禮後

古くより

徳次 幾くして 乃迄 二 三 年 南寺町 光明寺 徳洲
川寺 志多 已 爲 所 並 有 之 在 寺 川 弟 十 三 世 幼 進 頼 主
町 志 多 所 之 唱 之 也 地 山 而 之 寺 在 町 代 礼 後 頼 主
○ 初 所 橋 花 寺 之 加 部 家 也
○ 石 切 所 老 師 所 之 内 堂 也
當りに 石 橋 也 石 切 所 多 く 寺 殿 に 私 に 立 ち 目 せ

虚而林依州御神創志趣良有以哉古同州清洲為谷藍
 今當地城下成蘭若柳此地為體也若宮鎮在干東移
 賢本影大士擁護于南頭補陀嶺西樹林深而半月掛
 寺門斬北邦城聳而朝日輝士民家識是人境有緣之古
 跡之時機相忘矣坊也中頃在檀越道政者每歎境因可
 於焉寄附寺務百石矣且又封疆廢畝尔乃中興兩世殿
 堂紹隆管建宮尚新唯恨樓未架因茲予普劬緇
 素親疎刀治功風介成也早就也速即之他也金之我惟
 天步風聲響覺煩惱靈眼鳴霜落聲發生死繫
 縛夢莫習西方遠樹鳥念法音唯須十念心花結每常響
 所慶哉者天長地久師檀德與息種共不朽也矣
 祝曰
 今上皇帝 東君萬歲 國家千秋

滋白

尾陽精舍

養林靈區

新鑄寶器

忽撞頑愚

花鯨高架

薄牢鎮乎

聲來耳往

響寂本無

漁人知唱

推史向晡

遍滿五趣

透徹三途

梵唄無尽

征音不孤

金剛千歲

日乎月乎

延宝苑集 四

辰林後五日

重宝山養林寺九世住持比丘

竹抄問

○敦盛の母衣元は延長所甚なるに(高商家に傳ふを祖
 を木村を(とて)腰州山縣郡大栗村の(中比
 波阜大栗所に極遠なる子(高商能歩の國より)
 信長を(母衣)是と(養)為して持扇を(及)東坂ノ
 規十(分)益(并)平(敦盛)の母衣(其)の首(因)者(行)刀を
 与(ら)る(付)母衣(信)と(其)の(高)の(高)院(に)寄附(の)り

付母夜也其片が敬に傳来も 故五儿も 三辰由多(高附也)も
も亦敬をりる)やそのことハ志しむ 彼母夜に合尼
を以て法親上人真草の在号并法親の像を画し相り

林家系

越智信得

イニ通稱

林信俊也尾州名古屋城也
出林寺後

宗信

尾州知多郡 常滑住人林信俊の

岩長上人

智慈院賜常衣
尾州青林寺開山

女子

天壁園防方室

信親

多賀郡多賀子
子智与八二

志广守

子孫仕尾州

女子

信家

林半之丞

子孫仕尾州

在昔書と南隣境因
孝南山三十間家系
三千五百ノ子百千降降地

海古信系名智院寺

上人

多量山子村住也

号佛通院

本多阿弥院 東山院作

天文古亥白十日正守 寂

開山正蓮社院 卷上人 湖公大和尚

仍年八十未嘗夜三亥
自三亥百四十一百

院
鏡寺堂

山城下礼所

防守在也天祀

於由ら藤の一字を寺号に括属する開山天竺上人比叡山より
幸應業と稱せし藤次入清西の山に於て開山王の社ありしに
三人余り藤の一字を取り清剛(持師)元龜三年(1182)より
一字を造立の内業の意に被擧げし後(括属)に呪邪て言
詠(藤)の一字後世亦(法燈相續)繁昌せしは藤も年を逐
繁榮(藤)とせしと傳ふ事(藤)目(藤)に被擧げし藤(藤)に於て
霞(藤)を(藤)色(藤)の(藤)の(藤)影(藤)儼(藤)正(藤)に(藤)り(藤)人(藤)稱(藤)て(藤)
向(藤)の(藤)極(藤)と(藤)名(藤)自(藤)世(藤)の(藤)人(藤)極(藤)擧(藤)げ(藤)る(藤)事(藤)世(藤)を(藤)以(藤)左(藤)の(藤)

南寺所擧藤寺
記

後開山天竺上人(藤)極(藤)擧(藤)げ(藤)る(藤)事(藤)世(藤)を(藤)以(藤)左(藤)の(藤)
五(藤)り(藤)寺(藤)社(藤)を(藤)以(藤)藤(藤)極(藤)擧(藤)げ(藤)る(藤)事(藤)世(藤)を(藤)以(藤)左(藤)の(藤)
藤(藤)極(藤)擧(藤)げ(藤)る(藤)事(藤)世(藤)を(藤)以(藤)左(藤)の(藤)

藤(藤)極(藤)擧(藤)げ(藤)る(藤)事(藤)世(藤)を(藤)以(藤)左(藤)の(藤)
藤(藤)極(藤)擧(藤)げ(藤)る(藤)事(藤)世(藤)を(藤)以(藤)左(藤)の(藤)
藤(藤)極(藤)擧(藤)げ(藤)る(藤)事(藤)世(藤)を(藤)以(藤)左(藤)の(藤)

藤(藤)極(藤)擧(藤)げ(藤)る(藤)事(藤)世(藤)を(藤)以(藤)左(藤)の(藤)
藤(藤)極(藤)擧(藤)げ(藤)る(藤)事(藤)世(藤)を(藤)以(藤)左(藤)の(藤)
藤(藤)極(藤)擧(藤)げ(藤)る(藤)事(藤)世(藤)を(藤)以(藤)左(藤)の(藤)

藤(藤)極(藤)擧(藤)げ(藤)る(藤)事(藤)世(藤)を(藤)以(藤)左(藤)の(藤)
藤(藤)極(藤)擧(藤)げ(藤)る(藤)事(藤)世(藤)を(藤)以(藤)左(藤)の(藤)
藤(藤)極(藤)擧(藤)げ(藤)る(藤)事(藤)世(藤)を(藤)以(藤)左(藤)の(藤)

仙去院
 寶勝院
 清岩院
 寺
 仙去院
 寶勝院
 清岩院
 在州西光院...
 不初 現住七十三世

永照山西光院碑

尾州愛者郡名獲... 永照山西光院... 空眼... 州創... 靈場... 天瞻... 虎者... 幡然... 照旭... 百人之... 者不可... 治塵... 宝... 要順... 念誦... 起止... 齊粥... 早晚... 說行... 緩急... 必鳴... 之驚

取... 所以... 異類... 只有... 臣僚... 尾州... 免銀... 如... 鏗... 天清... 僧房... 西光... 警... 謹... 冥... 法... 國... 教... 誘... 警... 極... 自... 勿... 域... 願... 新... 百... 不... 他... 須... 萬... 福...

維時寬文二年寅歲十月佛示相日

○西光院南山路西入り南側寺
右内東面西は塔式同南山
左は石段入り八面寺二坪
除地

佛書卷四法持考

大悲山香樹院

平

古寺の観世音

用山

三世中興 延保香氏和尙

淨福山風園西光院寺

林老山法忍寺

○西光院南山路西入り行
当り東向境内六百五十八坪
除地

境目
○觀世音堂

○地蔵堂
十古若
札所

用山空廓蓮宮上人

(天正五年庚申年三月
十一日寂)

易地三世相空若自坊

(西暦元年申年三月
五日寂)

中興延保空若了和尙

(貞享二年庚申年
三月化)

(再中興) 飛空若老上人(是中和尙)

(正徳二年庚申年三月
十日寂)

古寺開基ハ 今皇百七代帝 正親所院の御中
傳則初の所に若創院を自月未有得用山示寂天正五年
三月五日寂
當院易地長和子代自正六平信地二世若老上人代
地行用山若延保三年九月

淨福寺智若院寺

五耳山法忍寺

塔院
号竹林院
庚申院

西光院南山路南角
塔院庚申堂
古地表南山路十九号
古寺若老若重
古寺若老若重
古寺若老若重
除地

陽明寺南隣天友町角
古池表南也十言車西
三拾言日大言七坪除地

降法宗智惠院志

万徳山法護寺 丈

平河内院

元龜二年三月廿六日

開山 先考融光上人

元龜三年四月廿七日

二世 傳考順教上人

文祿四年四月廿四日

三世 蓮光白道上人

慶長七年四月廿四日

四世 空雲才波上人

元和九年四月廿七日

五世 超考見平上人

貞享元年四月廿七日

十世 辨譽雨滴上人

寺堂庫裡方丈不殘建立後彼
貞享四年四月廿七日大山寺舎より移
之後建中寺と改修也

院因

地藏堂

十三世辨譽智究
丈室由五辰廿日
廿日入山法護寺建
立十五言九角

南山の天文年中法明

にて先考上人建立後

本山一寺山ノ麓下

近府の柳易地各別の

中法寺 有歷代遺

寺功有之 院由元

十八代ノ

十六世 再中興

明和二年 在寺寂
忍蓮杜當雲 教曆上人

元久三年六月
新燒之日 堂庫裡
石版并具

淨如海園 正光寺

龜雲山 徳林寺 丈人

元禄丁酉入北洲大乗院
寺内表 車西拾言車
裏南也三十八言車ノ
あはる九言除地
青院より言七坪上土ノ云

車西河内院

開山 空雲辨諫上人

元禄七年四月廿七日

開基 年歴不知性古ハ天台宗ニハ近府以前の爰に在りて古池
取申廣井中ノ所ナリトモ境内ニハ中比深麻在り多ク
盛衰ハ何ノ委教記録ナクモ被臨ノ人ニ其由當知
古池ノ院地トモ代極に及ハ性古ハ清経山ト以テ中
興ノ龜雲ト改号セリト云々

55
古力翁押帝ニ云 法那寺開山ノ古塚示ノ密中ノ古塚ノ遺教ノ書ニあり今ハ古 石権正塚也 伊九ノ寺内ニ老僧の
禁書ニ依傳ガカクシ七代中ノ古佛ノ下ト云大橋雨ハ各其形中ハ近古也 云々

南寺町内云及所南側
遠目南山五中百余年
早八百余年除地

龍虎及紀州寺地同の繁盛下
電岩山太兼院

電岩大権現社

山上東向、塔座石階を登り
社付塔座より石段御成道
鳥居 二
礎

揚社

○左房坊社 牛馬毎馬四
○香良洲神社 ○香天社

一座祭軒遇突神、斯神為天、所灼夷故在、故火之誓

一座祭素盞烏尊、往日神、誓曰愛吾天、若言如此者吾當

繼殺汝所、知國民日將了頭云、依忌生甚於死、故特忌産

或云、於山城也、電岩山、釈慶俊、侍祭、勝軍地、知、絶地、初
元、無、辨、軍、号、本、朝、依、尚、武、度、俊、坊、附、社、以、謂、在、揚、字、の
地、後、也、崇、々、別、得、辨、別、依、茲、武、家、号、為、崇、々、と云

嵩山電岩山、昔日、春日井郡、法洲、相り村に、誌、座、在、りて、年
久し、葦、長、十、七、年、了、大、守、三、夜、中、將、忠、者、少、延、福、の、所、貴
電岩の社地、在、樹、の、生、に、考、之、相、伝、を、と、強、地、を、以、て、渠、上、歩
行、し、し、海、燈、以、眼、中、に、入、り、目、と、面、を、あ、故、に、嵩、法、以、稱、り、の
物、亦、不、識、御、紋、附、し、故、に、嵩、字、附、安、如、名、其、也、御、以、善、傳、を、以、り、
聖、系、若、禰、大、守、以、り、其、の、在、り、無、傳、久、在、り、寺、為、存、在、り、也、
捨、地、傳、事、傳、布、也、
（御、塔、座、片、杖、丸）
（塔、座、同、字、傳、布）

右社地、を、及、云、臥、十、下、降、地、同、在、電、岩、燈、の、因、として、因、所
下、白、三、及、下、降、地、と、々、以、朝、日、村、を、境、地、由、山、北、之、葦、長、近、府
の、時、依、由、今、爰、より、易、地、と、云、り、古、字、傳、布、也、也、

尾、長、先、達、也、電、岩、山、別、當、院、遠、行、名、太、兼、院、村、長、其、兼、護、り、
電、岩、塔、現、と、云、り、雜、名、傳、布、傳、布、各、郡、微、實、の、浮、屠、其、協、之、
凡、山、依、り、後、小、角、を、名、祖、也、也、在、り、嵩、云、天、台、西、流、天、台、山、依、り、屬、
聖、護、院、門、主、是、也、謂、也、山、荒、下、真、方、云、山、依、り、爰、久、馬、之、院、聖、護、寺
三、寶、院、門、主、智、當、山、見、り、也、

○六条院 門前所家 昔日門前所家 教授之延喜等
 年秋の翌辰身 上に教の上地子町家之延喜の備
 西横所ハ定延二己身 猶是の所也之延喜

○天道宮

（本所町内南社跡に在り）
 天乃河一境自二十三箇日面陰地

神
 加茂右馬進

本社
 祭神 日神 天照大日靈貴 月神 日尊 日孁尊 二座

揚社
 祭神 多井 日乃 神等西宮子中 邪禁湯立丸

○八幡宮 奉國天皇 天正天皇 奉壽天皇 辨天社 神鏡
 是神天天皇御事 御持諸事御事 御持諸事御事 御持諸事御事

清洲より口湖日色に波音の事り之始年 歴不知天乃美の
 延喜生れ取村と仰りて号は 高長平六海 國令に河之安
 延喜の事り報告の事り神事之月朝日舊終に 報告在事今也

○天乃河之南之方北之向之山也
 古地事如早之る其南北五控會
 け坪メニ子 九降降細

海防之事如事院書
 八幡山徳安寺

古之阿波地

開山 完卷 月秀上人
 宣文 六年八月 存述此
 聖徳 三十三世

電知那南社村に古社の功係地堂事りて及大破しと久世
 七郎信の尉為父傳安座正保三戌の喜由処（川端）再
 再仕知事 祭の通りお叶建 志有く 久野山の額版
 教公御傳者より在りて 享保廿五年上り 寺堂之
 法紀之志懐の焼失 安教不記之

久野山徳安寺 澄鏡

尾張州名護屋南有一白蓮社山号之聖曰寺傳安常慕遠云
 徳風長追善道遺響不勵般舟三昧力爭續会殊更

功乎此檀越家藤多相長之世宗浩畢君年高而後勞
髮髮身才號禪寺院眼卷夢先居士為勝亡父之至院德卷
修安修士出離生死頓悟菩提善提會崇捨念劍建精舍似須達
開祇園而曰千頃崇相國築壁山土土峰者乎到倚蓋繒
華此瑤瑤等豈不莊飾制亦其餘乎所以軒在係亞相
義直云忝賜久禮山三宮額現掛室坊是忠信前致耶亦
孝心所顯耶人皆感激矣同姓嫡子長雄為所翁夢
光居士建修寺門畢可謂有良因矣為善果者宋藤內翰
亦留玉帶而鎮之云同姓孝子少弱冠餘而趙矣即覽
悟相淨心聚矣未後遺金而築高樓鑄掛後夫後為征拍
留孫佛於於多羅塔諸青石形現百十代佛說三部經即起
片界直透香冥大小鏡田震動百億須彌禱德一切惡道徒
苦立地皆得止所以屬職叱王生為大叙害死入十頭莫奴輪
繞體苦楚難除難音賜而累月確氣活以安居宋若高
皇帝掌謬叙降者千餘其報總械五木蒲牢一吼鳴萬
里大傾震途再甦人以告嗣若造三大靈處扣雲因報恩
酬德乍脫出厄這般事不可勝數大元隆寺觀音會也

曉鳴豐嶺霜則喚醒輪迴夢擊手長安則破隆冥昧昏而礼
拜張范佛親恭供助多相云此不遠時刹那十百億安莊上圖
悟道夕慕直周二十五門通門優鉢華薰世界頻伽鳥響乾
坤下濟三有士酬四恩仍長偈以元銘文
崇齋 乾坤處 大陽巧鑄新 頑銅貯上雪
純錢水中塵 已落一張口 竟成百鍊身
危樓逾數仞 重器懸千鈞 嘶月廬山夜
出花長樂春 盧生拋枕子 淳氏失家珍
假使例為帶 洪音無六辰

寬文三曆癸卯十月十九日

賜紫山門現想見北禪誌

○柳屋補

此屋河大右左邊ありあり
柳屋代徳回心長屋補

尚友家因有例存毎に

各柳樹を植て花の比ハ世の穢之ゆ人の柳葉を世中世の
柳林より植てぬ事又世人善而柳屋家より世に

△長是日並他分

此ハ大坂の東邊南ハ福祿三の町と
為ハ柳屋家あり町と為ハ柳屋家あり

○日蓮邑

全柳一以之七府下所領と成る事あり七百七十四畝
御所内北九合地北の唐井と成る南の唐井あり
堀川西田面村産新り東の唐井と成る北と成る

○秋田町

（大次東門南）
七寺西邊地唐井地

○金堀町

○とらぎ

○旅籠所

（南川口並橋）
唐井地入交り

○南側

右の枝木と成る唐井
ありし唐井あり

所並木と成る
日蓮代町と成る

○春田面振町

○志やぶ

○強七郎町

○ほろろく町

（志やぶ）
のあり

日蓮 名物

○日蓮殿

○日蓮系

細糸

○大次東門南（堀）
堀側寺地

日蓮宗寺所始道寺所

開山法徳院日象上人

法徳山顯隆寺

大檀越

顯隆院日蓮信女

竹橋氏

けち清古ハ堀田徳屋屋檀凡山九南
五ノ開基寺時代名物也
御用地より上屯急船より計村古江ノ地より
引越りて後高針村の地持より計村
自地と求方引越りて日蓮信女
信女と成りて建創以と之

高云大次東門南

○大次東門南
堀側寺地より八畝分除地

日置山観福寺

観音堂

高日氏作
正徳元

中興開山盛憲信女

当観音堂は信性在計
地より子易の地より
として名物し建創
開基委命の中興
盛憲信女六代

神邸宮

（遠内法寺より）
此の神を神と名付移り

存案地所古思州巡檢の時寓于古寺
一邦中檢地刺り
計地より比三ツ家と名く旧地ありと云

全塚下内南ノノ境内
南北に同車馬を八石ノ
八十坪段地所並ノ内

東門院坊地末

附福山万福寺

切多阿弥陀

開山 秋了寺坊

当寺開基より昔ハ三州討勝務修曼吉舎中より七徳州の角
一寺を建立立史方竹ヶ鼻ノ鼻ノ鼻に十六代を経て後府下の
皆戸所に易地高深の晩年、七の終ノ終ノ終ニ在りて改流ニ
了り寺房より代金に及ぶ退ノ退ノ退ニ出興にあひて少地を
古ハ末も多ク車りし御とも付室ハ殿ノ殿ノ殿ニ修曼吉

西門院坊地末

寶徳山教圓寺

後徳所内南側地目
お取分自二頁地町原内

切多阿弥陀

開山

○後徳所内南側地目
三百年前自二頁地

淨初山浄田正堂末

法皇山法徳寺

客殿 切多阿弥陀如來

地蔵堂

後白河帝 勅依在 勅依ハ為後徳所ニ御書像
安所法作 座像御大ニ七寸極子易 此所ニ
立ハ慈覺大階作 六世慈覺御書ハ一書の札有
二平六世慈覺御書ニハ切多阿弥陀の如し也

開山 深空高直上人

天文三年壬子ノ上ノ化

二世 恭空光山坊

天正十九年卯三月ノ八日化

寺院略縁起云 隆古境内ハ山之 天徳寺^大御書像
ハ僧愛に御書像^座在り 是ハ侍律の御書像^陰也 御書像^御ハ
侍律の地に御書像^愛と山向の座と云 当地後多ハ後白川
院の皇后建春門院 御書像の御書像^御の御書像^御の御書像^御
帝自ニ彫刻し 御書像^御上人に勅ニ開眼也 後白河

永曆二年九月三日御産卒年 皇子誕生是を金殿と
 申す 其後安海海別に大徳を造りて 御幼言を後後より御
 奉る (帝) 地蔵と三神彫刻しり 因一御の
 係に用山深室より人感得負より 亨福三宮身付地に安重
 理吉 寺那より申結む 日輪山法澤より 号法橋寺法徳上人
 の開眼法衣法皇山法徳より 改号 (一法) 法徳上人を別橋地より向の時
 勅作止言る金年来に及ぶに西に開基ハ二百五十年に及ぶ
 其初境目も廣く大地ありし 一度轉變し平儀又御堂ありし
 相澤よりしと現存は代前十世知空法師より 安永二年
 切世地に取立美の上人地より御好
 享保十七年 寺より 同日開帳の良辰 國最長在の
 御紋附 柳灯を法澤寺附の通言に 御根柢の善托して
 御堂の御入環より 御堂の御堂 御堂の御堂 同年三月
 七日 御堂院橋より 御堂の御堂 御堂の御堂

○橋康申 (橋州天王寺) 在地極當内北方、安重より
 後古法橋と境内廣く回り廻り白山社の通じり 白山社を
 々に白河橋の名あり け橋の通じりには 白山社を
 橋として橋の康申として名を 縁よりハカニ多指多し

○磯の掃部又築宅堰 堀川惟之今山陰氏為 廣合
 磯古磯田丹波寺尾浦城の地と云 世に御丹波の御堂と云ハ
 丹波の氏の角力取込に在り 寺尾丹波の御堂と云ハ

○白山宮 (南) 日蓮橋より 御殿 寺井 聖の社人指
 日蓮邑の善妙御多事 毎社八月十日陽立御建地也

○山形社 (南) 日蓮地白山より 南東方 古樹の大板七八棟あり
 中に山形より 白山より 同社人の御堂と云

○素原堂 (南) 御堂の御堂 御堂の御堂 御堂の御堂
 後古法橋より 開基の御堂 御堂の御堂 御堂の御堂

○所神社 (馬地) 御堂の御堂 御堂の御堂 御堂の御堂

○白河橋

此橋は白河の故所
白河の故所

古く信濃山法橋を境にして

白河橋の故所より馬の路の里路有と信濃山法橋の故所

○日直橋

曹州條

○無名殿杖

川内信濃山法橋の故所

氏信むさんどと云古書年満書

信濃山法橋の故所

傳ふ事

公の御は男大御康長

信濃山法橋の故所

願ふ事

家三介自

信濃山法橋の故所

のふを

名作し

信濃山法橋の故所

年を

三百人

信濃山法橋の故所

信年

高卒

信濃山法橋の故所

名作

し

信濃山法橋の故所

信年

高卒

信濃山法橋の故所

名作

し

信濃山法橋の故所

信年

高卒

信濃山法橋の故所

名作

し

信濃山法橋の故所

信年

高卒

信濃山法橋の故所

名作

し

信濃山法橋の故所

信年

高卒

信濃山法橋の故所

名作

し

信濃山法橋の故所

信年

高卒

信濃山法橋の故所

名作

し

信濃山法橋の故所

信年

高卒

信濃山法橋の故所

名作

し

信濃山法橋の故所

信年

高卒

信濃山法橋の故所

名作

し

信濃山法橋の故所

信年

高卒

信濃山法橋の故所

名作

し

信濃山法橋の故所

信年

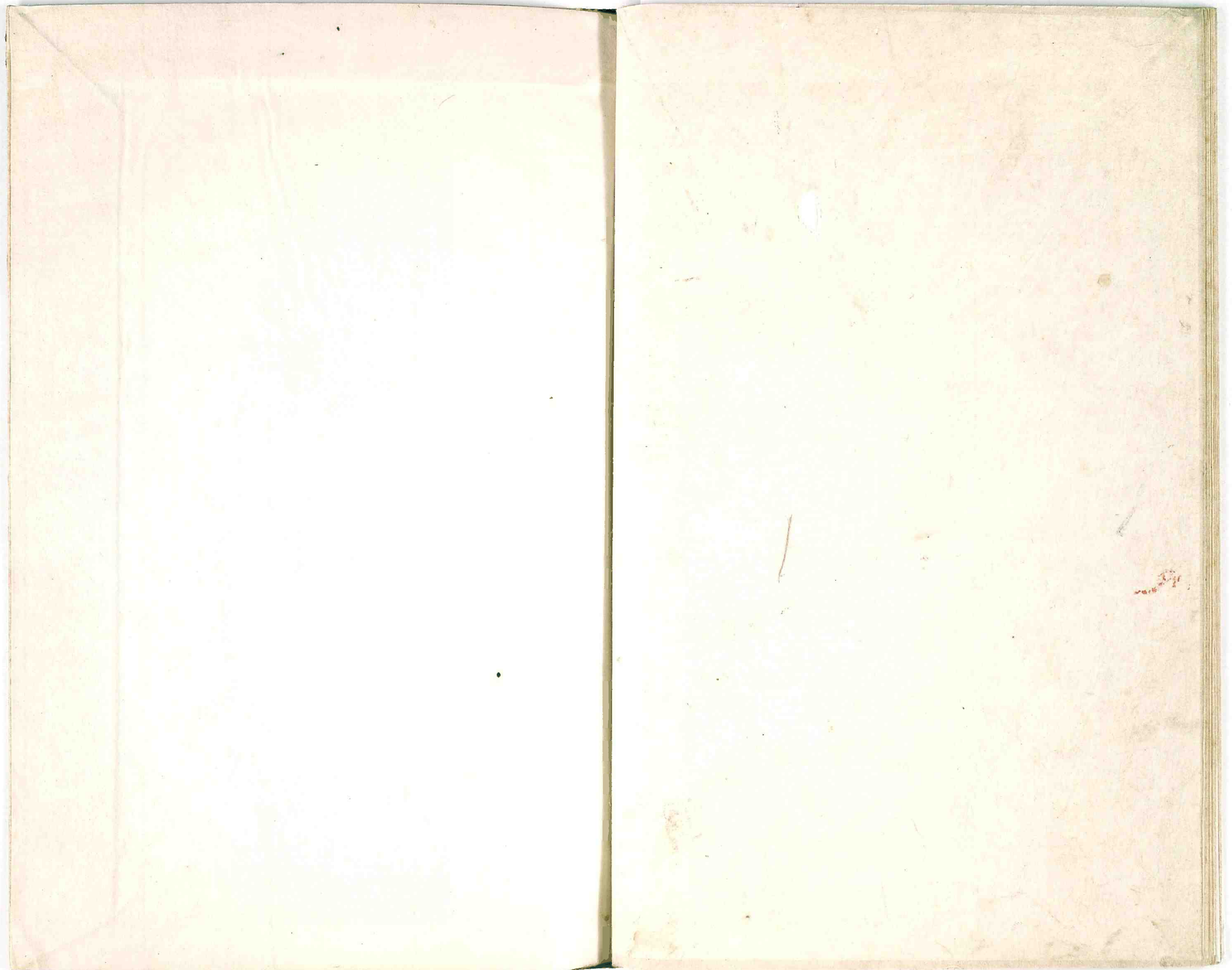
高卒

信濃山法橋の故所

名作

し

信濃山法橋の故所



愛 知 県



1103269390